



2021年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕（非連結）

2021年2月15日

上場会社名 中部水産株式会社 上場取引所 名
 コード番号 8145 URL <https://www.nagoya-chusui.co.jp>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 脇坂 剛
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役 (氏名) 中川 正一 TEL 052-683-3001
 四半期報告書提出予定日 2021年2月15日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無：無
 四半期決算説明会開催の有無：無

(百万円未満切捨て)

1. 2021年3月期第3四半期の業績 (2020年4月1日～2020年12月31日)

(1) 経営成績 (累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2021年3月期第3四半期	31,663	1.3	367	74.6	460	41.4	317	39.7
2020年3月期第3四半期	31,246	△2.0	210	42.0	325	34.7	227	48.3

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2021年3月期第3四半期	180.22	—
2020年3月期第3四半期	129.01	—

(2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2021年3月期第3四半期	16,881	12,529	74.2
2020年3月期	14,575	12,313	84.5

(参考) 自己資本 2021年3月期第3四半期 12,529百万円 2020年3月期 12,313百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2020年3月期	—	40.00	—	40.00	80.00
2021年3月期	—	40.00	—	—	—
2021年3月期 (予想)	—	—	—	40.00	80.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

3. 2021年3月期の業績予想 (2020年4月1日～2021年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	40,200	△0.1	278	56.2	378	24.3	250	16.5	141.94

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

※ 注記事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2021年3月期3Q	1,926,900株	2020年3月期	1,926,900株
② 期末自己株式数	2021年3月期3Q	165,623株	2020年3月期	165,623株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2021年3月期3Q	1,761,277株	2020年3月期3Q	1,761,347株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

（将来に関する記述等についてのご注意）

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料の3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報（3）業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期貸借対照表	4
(2) 四半期損益計算書	6
第3四半期累計期間	6
(3) 四半期財務諸表に関する注記事項	7
(継続企業の前提に関する注記)	7
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	7
(セグメント情報等)	8

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期累計期間における当社の営業基盤である東海経済は、新型コロナウイルスの感染が続く中、牽引役の製造業で中国や米国向け輸出が回復へ向かいましたが、11月から感染第3波が広がり、政府による需要喚起策の一時停止、飲食店などへ時短要請がなされ、企業による設備投資や労働需要も改善には至っておらず、先行きは不透明な状況で推移しております。

当業界におきましては、自然環境の変化やそれに伴う天候不順、乱獲などにより水産資源が減少傾向にある中で、季節ごとに期待できた漁獲量が不安定となっています。12月には新漁業法が施行されており、資源管理が厳格になっていきます。また、新型コロナウイルスの影響で、旅行や宴会の自粛などがあり、宿泊や外食を中心に生鮮高級魚の流通が鈍化し、厳しい経営環境となりました。

このような外部環境のもとで、当社は、限られた水産資源での販売競争に対応した調達力、営業力の強化を図るとともに、業務の効率化や諸経費の削減を推し進めるなど、業績の向上と企業体質の強化に取り組んでまいりました。

この結果、売上高は卸売部門で内食需要向けに販売数量が増加し増収となり、飼料工場で養鰻用飼料及び魚粉の原料販売が増加するなど、全体で31,663百万円(前年同四半期比1.3%増)となりました。経常利益は、利益率の改善による売上総利益の増加、一般管理費の減少などにより460百万円(前年同四半期比41.4%増)となり、四半期純利益は317百万円(前年同四半期比39.7%増)となりました。

今後につきましては、売上面では、自然の影響を受けやすい天然魚の漁獲量減少に対応するため、出荷者との繋がりを深め、養殖魚や他魚種の集荷により安定供給を図ります。また、2019年に持続可能な水産物のサプライチェーンに付与されるマリン・エコラベル・ジャパン(MEL)の認証を取得しており、資源や環境に配慮した水産物の取扱いにも関わってまいります。利益面では、個々の取引条件の見直しや工場原価及び一般管理費の削減に努め、利益率の改善を図ります。

セグメント別の経営成績は、次のとおりであります。

(卸売部門)

鮮魚は、生鮮キハダマグロの輸入の減少、養殖ウナギはシラスの生育が悪く取扱減、養殖クルマエビの単価安、天然ブリ、ワタリガニの入荷減、外食向け養殖サーモンの需要も減少するなど売上減となりました。一方、加工原料向け養殖本マグロが需要増により好調に推移し、スルメイカ、ツバス、ホタテ貝柱、養殖アワビの取扱が増加したため、全体では増収となりました。

塩冷加工品は、外食向けに大型サイズのボイルホタテ、赤魚が需要減少し、金目鯛、モンコウイカの取扱減、ノルウェー産アトランティックサーモンが価格高により売上減となりました。一方、ズワイガニが加工業者向けに原料販売が伸長し、ギンダラの価格安、アカエビ、養殖パナメイエビ、開きアジ、ホッケが取扱増により売上増となりました。巣ごもり需要により、チリ産の銀サケフィーレ、加工原料用ベニサケ、イクラ製品、健康志向ブームによる納豆製品、ブランド色がある餃子などの中華総菜も販売好調で売上増となるなど、全体では増収となりました。

この結果、売上高は30,522百万円(前年同四半期比0.8%増)、営業利益は405百万円(前年同四半期比26.5%増)となりました。

(飼料工場部門)

養鰻用飼料は、シラスウナギ漁が前年より好調であったため、池入れ量が増加し売上増、魚粉は原料販売が増加するなど、大幅な増収となりました。

この結果、売上高は628百万円(前年同四半期比27.9%増)、営業利益は23百万円(前年同四半期は営業損失9百万円)となりました。

(冷蔵工場部門)

学校給食用の食材や中国からのコンテナ貨物が入庫減少となりましたが、弁当用などでコンビニや量販店向けの冷凍食品は順調な入庫が続く売上増となり、増収となりました。

この結果、売上高は378百万円(前年同四半期比1.1%増)、営業利益は81百万円(前年同四半期比13.7%増)となりました。

(不動産賃貸部門)

主な事業である賃貸マンションが順調に稼働した結果、売上高は134百万円(前年同四半期比19.0%増)、営業利益は84百万円(前年同四半期比24.5%増)となりました。

(2) 財政状態に関する説明

当第3四半期会計期間末における総資産は、16,881百万円となり、前事業年度末に比べ2,305百万円(15.8%)増加しました。主な要因は、売掛金1,816百万円、現金及び預金1,162百万円、土地995百万円などの増加、有価証券1,400百万円、投資有価証券256百万円などの減少によるものです。

負債は、4,351百万円となり、前事業年度末に比べ2,090百万円(92.5%)増加しました。主な要因は、買掛金1,921百万円などの増加によるものです。

純資産は、12,529百万円となり、前事業年度末に比べ215百万円(1.7%)増加しました。要因は、利益剰余金176百万円、その他有価証券評価差額金38百万円の増加によるものです。

(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明

当第3四半期累計期間は、業績予想の想定内で推移しており、2020年11月13日発表の通期の業績予想は変更しておりません。

2. 四半期財務諸表及び主な注記

(1) 四半期貸借対照表

(単位:千円)

	前事業年度 (2020年3月31日)	当第3四半期会計期間 (2020年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	3,063,433	4,225,819
売掛金	1,861,382	3,677,774
有価証券	1,801,277	400,556
商品及び製品	2,064,812	2,263,422
仕掛品	22,023	22,403
原材料及び貯蔵品	250,455	115,410
その他	10,606	9,163
貸倒引当金	△11,055	△22,150
流動資産合計	9,062,935	10,692,400
固定資産		
有形固定資産		
建物(純額)	769,741	747,710
土地	960,236	1,955,249
その他(純額)	84,915	71,720
有形固定資産合計	1,814,892	2,774,680
無形固定資産	62,080	51,588
投資その他の資産		
投資有価証券	3,533,856	3,277,549
その他	142,129	119,546
貸倒引当金	△40,726	△34,757
投資その他の資産合計	3,635,259	3,362,338
固定資産合計	5,512,232	6,188,607
資産合計	14,575,167	16,881,007
負債の部		
流動負債		
買掛金	1,386,022	3,307,221
受託販売未払金	111,456	154,948
未払法人税等	64,493	85,878
賞与引当金	42,410	27,129
役員賞与引当金	7,795	—
その他	170,794	272,193
流動負債合計	1,782,971	3,847,371
固定負債		
退職給付引当金	346,184	331,910
その他	132,141	172,601
固定負債合計	478,326	504,512
負債合計	2,261,298	4,351,884

(単位:千円)

	前事業年度 (2020年3月31日)	当第3四半期会計期間 (2020年12月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,450,000	1,450,000
資本剰余金	1,045,772	1,045,772
利益剰余金	10,098,938	10,275,459
自己株式	△641,839	△641,839
株主資本合計	11,952,871	12,129,391
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	360,998	399,732
評価・換算差額等合計	360,998	399,732
純資産合計	12,313,869	12,529,123
負債純資産合計	14,575,167	16,881,007

(2) 四半期損益計算書
(第3四半期累計期間)

(単位:千円)

	前第3四半期累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)	当第3四半期累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年12月31日)
売上高	31,246,815	31,663,332
売上原価	29,861,675	30,190,498
売上総利益	1,385,139	1,472,833
販売費及び一般管理費	1,174,744	1,105,434
営業利益	210,395	367,398
営業外収益		
受取利息	13,421	13,104
受取配当金	51,121	49,689
受取手数料	23,223	20,451
その他	28,839	10,482
営業外収益合計	116,605	93,727
営業外費用		
雑損失	1,396	609
営業外費用合計	1,396	609
経常利益	325,605	460,517
税引前四半期純利益	325,605	460,517
法人税、住民税及び事業税	82,900	134,798
法人税等調整額	15,468	8,297
法人税等合計	98,369	143,095
四半期純利益	227,235	317,422

(3) 四半期財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第3四半期累計期間(自2019年4月1日至2019年12月31日)

1 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント				合計	調整額 (注) 1	四半期 損益計算書 計上額 (注) 2
	卸売部門	飼料工場 部門	冷蔵工場 部門	不動産賃貸 部門			
売上高							
外部顧客への 売上高	30,268,259	491,603	374,308	112,643	31,246,815	—	31,246,815
セグメント間 の内部売上高 又は振替高	6,655	—	96,673	—	103,329	△103,329	—
計	30,274,915	491,603	470,982	112,643	31,350,144	△103,329	31,246,815
セグメント利益 又は損失(△)	320,280	△9,756	71,501	67,965	449,990	△239,595	210,395

(注) 1 セグメント利益又は損失の調整額△239,595千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用であり、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2 セグメント利益又は損失は、四半期損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

II 当第3四半期累計期間(自2020年4月1日至2020年12月31日)

1 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント				合計	調整額 (注) 1	四半期 損益計算書 計上額 (注) 2
	卸売部門	飼料工場 部門	冷蔵工場 部門	不動産賃貸 部門			
売上高							
外部顧客への 売上高	30,522,200	628,657	378,433	134,041	31,663,332	—	31,663,332
セグメント間 の内部売上高 又は振替高	10,067	—	90,111	—	100,179	△100,179	—
計	30,532,268	628,657	468,544	134,041	31,763,511	△100,179	31,663,332
セグメント利益	405,092	23,250	81,306	84,597	594,247	△226,848	367,398

(注) 1 セグメント利益の調整額△226,848千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用であり、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2 セグメント利益は、四半期損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。